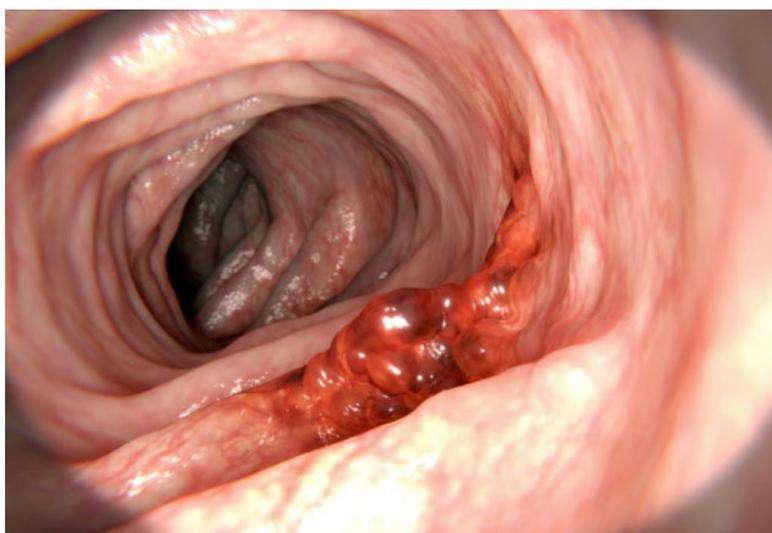


大腸内視鏡検査はがんの生涯リスクを抑制

大腸内視鏡による大腸がん検診では、腺腫検出率（adenoma detection rate : ADR）が高いほど、大腸がんの発症や大腸がん死の生涯リスクが抑制され、費用は増大しないことが、オランダ・エラスムス MC 大学医療センターの研究グループより示され、JAMA 誌に報告されました。



ADRは大腸内視鏡検査の質の指標とされますが、施術者によって3倍以上のばらつきがみられ、最もADRが高い施術者に比べ最も低い施術者では、10年以内の大腸がんの発症リスクが約50%、がん死のリスクは約60%上昇することも示されました。



ADRが5%上昇するごとに、大腸がん生涯発症率が平均11.4%（低下し、死亡率は平均12.8%減少しました。